

がんばれ看護学生!!

2015年9月号 祝! 第200号

発行: 京都民主医療機関連合会 ホームページ: <http://www.kyoto-min-iren.org> E-Mail: kangogakusei@kyoto-min-iren.org

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町 21-3 春日ビル4階 TEL (075) 314-5011 FAX (075) 314-5017

近畿看護学生ゼミナール開催

メインテーマ

ハッピースマイル輪・和・話

130人の人間イッ



近畿地協看護学生ゼミナール (Egg Nurse Step to B) を8月10-11日に神戸フルーツフラワーパークで開催しました。近畿の看護学生94名と民医連事業所職員36名の合計130名が参加し、学習・交流を深め、思い出に残る楽しいとりくみとなりました。

1日目は開会式の後、愛知県立大学の久保田貢先生をお招きし「ちゃんと学ぼう! 憲法」のお話を聞きました。憲法を実際に読んでみるなどの参加型の講演で、憲法をより身近に感じることができました。また今、国会で審議されている「安保法制」の説明、SEALDsの抗議行動の動画が紹介され、同世代の若者の行動に刺激を受けました。その後のグループワークでは学んだことを意見交換し、全体に発表しました。

夕食 (BBQ) 交流会、夜交流会、二日目の交流会と、様々な企画を通して、近畿の学生どうし、職員と学生の交流を深めました。看護学生あるある「あいうえお作文」、イントロクイズ、障害物競走、ロシアンルーレット、伝絵ゲー



ムなど盛りだくさんの内容でした。喋って、笑って、走って、そして「平和」について学び、みんな考えた二日間となりました。



講師: 久保田貢先生

- 1 p ENS の報告
- 2 p 京都民医連中央病院ナースングセミナー
- 3 p 病棟夏祭り、大盛況!
- 4 p 信和会ナースングセミナー
- 5 p 第二中央病院の透析室紹介
- 6 p 私の大切にしている看護
- 7 p 私の休日/平和のための盆踊り
- 8 p 原水爆禁止世界大会 in 長崎に参加して



京都民医連中央病院では8/20にナーシングセミナーを実施。10校から21名が参加し、10校の実習服が一同に揃いました。午前中は希望に沿った2つの病棟で1時間ずつ見学・体験。昼食のあと、午後は認定看護師による学習企画「最近話題の感染症と感染対策！～もしあなたの身近に「MERS」感染者がいたら～」というテーマで感染管理認定看護師曾根孝子師長より講義を受けました。そして、最後は現場で働く看護師12名との交流TIME♪仕事や私生活の様子や、看護師としてのやりがいなどなど、もりだくさんの話でどのグループも盛り上がりました。このような企画を12/24にも計画しています。今回参加できなかった方はぜひ冬に！！（以下感想）

<学習>～認定看護師による学習企画「最近話題の感染症と感染対策！～もしあなたの身近に「MERS」感染者がいたら～」



* 医療従事者は感染のリスクが他の職種よりも圧倒的に高いと思うので、感染予防を徹底し、自分と患者様を守ってきたい。

* 正しい手袋、N95 マスク、エプロンのつけ方を教えてもらったのがすごくためになった。患者様だけでなく、自分の身もしっかり守れるようにならないといけないと思った。

* TVのニュースだけでは知ることのできないウイルスの特性や感染予防などについて、詳しく学べ、とても勉強になった。

* 手指衛生の大切さがわかるお話だった。正しい着脱を心掛けたい。

* 授業でこの前梅毒について学んだけれど、その時には昔のことで、今は梅毒はないと決め込んでいました。今回、お話をきいて、梅毒のような感染症は全くないわけではなく、今でも存在していると危機感を覚えた。

* N95マスクや防護具を付けて、感染しないように気をつけながらの医療は大変だと思った。

* 感染症に対する知識をもっと勉強して増やそうと思った。

<看護師との交流>

* 就職した後のイメージが湧いた。先輩も優しくて安心した。

* わからないことや疑問について詳しく教えてくださったので不安がなくなった。いろいろな話をしてくださって、楽しい時間になった。質問にもしっかり答えていただけ、とてもいい時間だった。

* 「夜勤も慣れる」「患者さんに癒される」など聞けてホッとすることができた。看護の仕事は大変だけど、やりがいのある楽しい仕事、と感じた。働くのが楽しみになった。

* 学生の頃が一番つらかった、しんどかったということ声をそろえておっしゃっていたので、今が一番頑張れり時だと改めて感じることができたので、国試勉強や実習等頑張っていきたい。

* 実際に働いておられる看護師さんとお話しできて、少し不安が減った。普段はこんなに話したり情報を得たりすることは少ないので、すごくよい機会となった。ありがとうございました。

* 看護師の方の実際の生活を知ることができ、大変参考になった。

…と、とても充実した一日でした。～おつかれさまでした～



<病棟体験>

* 呼吸器や心電図モニター装着の患者様の清拭の行い方や体位変換の方法を知ることができた。

* 教科書だけでは学べないことが知れてとてもよかった。

* 看護師が実際に患者さんの食事介助やコミュニケーションをとっているところを見ることができ、貴重な体験だった。

* 産婦人科では実際にお母さんの話を聞くことができた。自分の身体から新しい命が生まれるということの感動がどれほど大きなものなのかがよく分かった。

* 病棟見学では、患者さんの安全を守るための設備がハイテクで驚いた。またチーム全体で患者さんの健康管理をしていくのくみを見ることができてよかった。

* OPE見学で、実際の手術、実際の機械や看護師の動きを見ることができた。

* 緩和ケア病棟見学では、個室ばかりで、家族室やキッチンなどがあり、他の病棟とは違い、とても落ち着いている印象だった。

* 足浴させていただき、患者様と実際にお話しをすることで、今までよりも親近感がわき、希望が具体的になった。

* 将来、このような職場で働けると思うと就職後が楽しみになった。

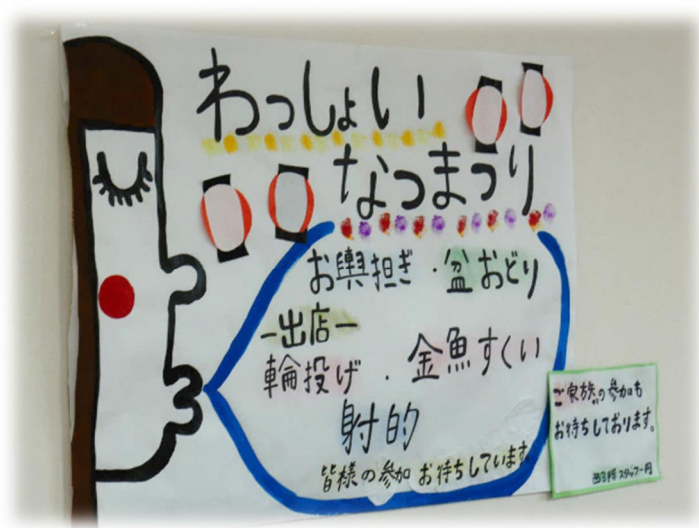
* 胃ろうと腸ろうを初めて見た。栄養液を与える時の注意点なども聞け、勉強になった。看護の仕事っていろいろあり、責任のあるものだなど改めて思った。

* 看護師さんに丁寧に患者さんとのかわりや日頃の仕事の内容を教えてもらい、病院のことや関わりなど知識を深め、理解することができてよかった。一人一人の患者さんと丁寧に接しておられる姿を見て、私もこのような看護師になりたいと思った。見学ができてよかった。



病棟夏祭り、大盛況！！

京都民医連中央病院 西3階病棟看護師 加藤 友祐



私の病棟のとりくみを紹介します。

8月下旬のある一日、京都民医連中央病院西3階（地域包括ケア）病棟の行事企画として、夏祭りを行いました。患者様、ご家族様、職員がともに楽しみ、患者様に季節を感じて気分転換していただくことが目的です。お祭り会場となった病棟ホールで金魚すくい、射的、輪投げに挑戦してもらい、余興として神輿担ぎ・炭鉋節の踊りを披露しました。

射的では、おもちゃの銃を持つと、みなさん真剣な表情に変わり、一生懸命、的を狙っておられました。

金魚すくいはおもちゃの金魚でしたが、大物を狙って奮闘されていました。輪投げは、普段からもリハビ

リでとりくまれているので、とても上手にできました。

神輿担ぎの神輿は、手作り。患者様に毎日少しずつ貼り絵をしていただき、職員と一緒に完成させました。自分たちで作った作品なので、出来上がった神輿に愛着を持っていただけたようです。職員が神輿を担いで登場すると、拍手で迎えてくださいました。まずは男性の患者様に担いでいただくと、本物の神輿のように、大きく横揺れをさせて、鈴の音を鳴らしてくれました。女性の患者様には重かったようですが、スタッフと一緒に担いで盛り上げてくださいました。



炭坑節は当日まで患者様・職員と一緒に練習。その成果もあり輪になって踊ると一体感が生まれました。

「最初から参加できて全部楽しかった！」「ワンドフル！」「金魚すくいが一番楽しかった！」「神輿を担ぐ時の音楽と掛け声がよかった！」と患者様からは最高の感想が。

この夏祭り、ケアワーカーを中心に、患者様に楽しんでいただけるよう、1ヵ月前から準備をしました。患者様にも神輿の貼り絵に参加していただいたり、チケットを配布したり、ポスターを作って病棟に貼りだしたりしたことで、気分的にも盛り上がり、患者様は夏祭りを心待ちにされていました。当日も開始時間より早くからたくさんの方が並んで待っていてくれました。

他の病棟の患者様やご家族様、職員の方々にも呼びかけ、またベッド上で過ごされている患者様にも会場に来ていただき、お祭りの雰囲気を楽しんでいただきました。

今回の企画を通して様々なことに挑戦する患者様の表情や笑顔を見ることができ、職員も一緒に楽しむことができました。病院という限られた空間で入院生活を送っておられる患者様に、楽しいひと時をおくっていただけたと思います。



ナースングセミナー報告



信和会の看護奨学生が、夏休みを利用してナースングセミナー(インターンシップ)に来られました☆将来自分が働く病棟について、詳しく知っていただく機会となりました(*^_^*)

京都市内 看護専門学校
3年生 3名

南3階



北2階



感想

Sさん

とても安全に留意しておられ、転倒転落に気をつけておられることが分かりました。特に、北2階はリハビリ病棟であったため、患者さんに歩く時間をもうけたり、食堂での食事の促しがされていることを知りました。

北3階では、先輩と後輩がペアとなって業務につかれており、看護師同士のコミュニケーションが大切であることが分かりました。

その他に、北3階・南4階にも行かせていただきました。

感想

Iさん

北3階では、パートナーシップに基づいて受け持ち患者さんへの援助の内容を臨機応変に相談しながら変更している様子を見て、卒後1年目の新人でも、このように相談しやすい先輩と組みながら仕事することは心強いだろうと感じた。

北2階では、リハビリテーションに力を入れている階であるが故に、患者それぞれの自立度も高く、食事時には食堂へ出向く患者の多さに驚いた。また、患者同士のコミュニケーションも多く見られ、新鮮な場面だった。退院に向けて頑張っておられる患者のサポートがメインのように見てとれました。



京都市内 看護専門学校
3年生 1名

愛媛県内 看護専門学校
2年生 1名

愛媛にも奨学生
がおります☆

感想

Sさん

3病棟見学させていただき、どこの病棟も患者さんに寄り添い、看護をしておられました。回復期では、急性期を脱した患者さんが主に入院されており、すべて看護師が援助するのではなく、患者さんのできる所は自身で行ってもらい、出来ないところを手助けする関わりをされていて、とてもいい病棟だと感じました。

感想

Hくん

担当していただいた看護師さん全員が知識を持っておられ、患者さんへの援助やコミュニケーションをとる際、笑顔を見ることが出来た。もっと看護師さんの援助を見て学びたいと感じた。



副看護部長よりひとこと☆

実習以外での病棟体験は普段見られない看護師と患者さんの関わりを知ることができて、とても勉強になっているようです。普段から大切にしている看護とは何かを見ることができた体験となったと思います。体験に来られた方、受け入れてくださった病棟のスタッフの皆様お疲れ様でした！



第二中央病院の

透析室

ってこんなところ♪



透析室師長 谷淵 未生



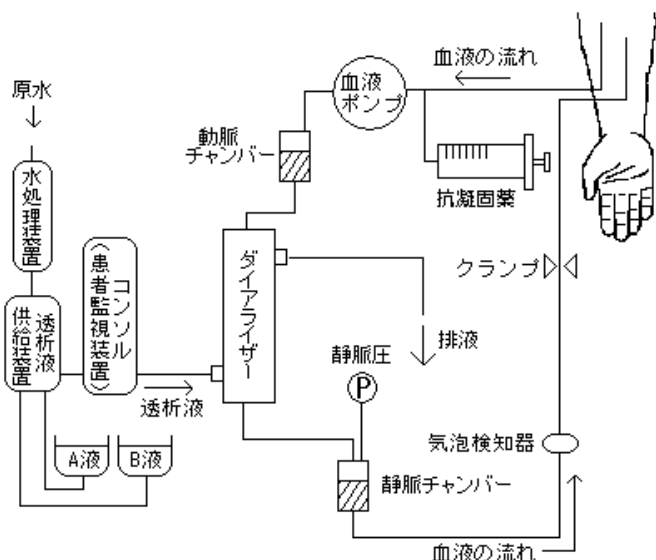
こんにちは！第二中央病院透析室の師長谷淵です。第二中央病院には透析室があります。今回は透析室の看護について知っていただきたいと思います。

第二中央病院は、172床の入院ベッド数で4病棟（回復期リハビリ 51床・一般急性期病棟 40床・障害者病棟 47床・34床の2病棟）で患者層は回復期を除けば高齢者・慢性期疾患・認知症が多い病院です。腎不全の悪化により新たに透析になる患者さんへの透析導入や、外来透析中の患者さんの急性期疾患での入院時の透析、高齢になり在宅生活が難しくなりリハビリ入院されたときの患者さんの透析など様々な対応が必要になります。

それぞれの患者さんのニーズにあわせ、透析導入時の患者さん家族を含めた教育計画や、維持期の患者さんの看護計画などを透析独自で立てています。入院中の患者さんのカンファレンスへの参加などもできるだけ参加できるようにカンファレンス用紙の活用などで情報共有を行っています。最近は癌の患者さんなども増え、ターミナル期の透析室看護の役割とはなど事例検討など行っています。認知症の患者さんを透析時間内にどうすれば安心・安全にすごしていただくことができるか、リハビリ入院中の患者さんのADL拡大を透析室としてどう援助するかなどいろいろなことが求められています。他職種での情報共有が重要であり、介護保険の対応などにもかかわりながら、入院患者さんの退院調整、自宅に帰られた後での送迎対応などへも思いをはせ日々看護しています。そのほか、フットケアのためのフットチェック、透析室ニュースの発行、グリーフ訪問、近畿高等看護専門学校への講師派遣も行っています。

子育て世代の看護師が多く、笑顔あふれた働きやすい職場です。透析室看護へ興味のある方はぜひ見学に来てください。

↓ 血液透析の流れ



私の大切にしている看護

看護観や今回のように「大切にしている看護」という様なテーマをいただくと、いつも少し悩んでしまいます。自分の中で確固たる看護に対しての思いが無いわけではありませんが、その時々役割や立場で思いは少しずつ変化していくように感じています。

看護師資格を取って3の数年が経過しており、夜勤をしながら1スタッフとして働いていた頃と、現在のように、管理という立場や立ち上げた事業がうまく起動するかなど、様々な課題が加わってくると、私が看護師として大切にしているものは？と改めて考えるとやはり、難しい気がします。

しかし、看護は患者さんをはじめとして、人を相手にする仕事であり、チームで実践していく仕事だと思っています。人とのつながりや人間関係を良好に保てないと、良い看護も提供できないという気がします。患者さんという対象だけでなく一緒に働くスタッフの気持ちも考えたり、気持ちよく働ける環境を作ることであったり、その上でチームで目標を共有して行くことが、良い看護を提供できることにつながるのではないかと感じます。自分も含めて人を大切にできないと、看護師としては働けないと感じています。

看護管理のファースト研修で、私が書いた「私の看護観」を読み返してみると、「理論の裏付けのない看護や、エビデンスに裏付けされない看護の提供では、専門職といえない。『専門職といえる理論や技術の裏付けを持って看護を実践している』と、胸を張って言えるような、プライドを持った仕事がしたい。看護に終わりはない。技術面の追求も、知識を得ることも、そして患者さんの気持ちに寄り添うことも、どれ一つをとってもゴールのある内容ではない。常により良い看護を追求する姿勢や学ぶ姿勢を持ち続けることが必要と考える」という様な事を書いていました。なるほどと、いま読み返しても感じます。もっと多くの課題や大切にすべきことはあるのかも知れませんが、今の私の大切にしている看護はこのようなことであると思っています。

吉祥院病院副看護部長 豊田 園子

* 私の休日 *

看護学生の皆さん、こんにちは。

私は外来で働く看護師です。家に帰れば保育園児、小学生、中学生と選り取り見取りの3人の子供達の母親です。外来勤務ということもあり、休日は週末が多く、必然的に子供たち中心の休日を過ごしています。基本的に、家に籠る事は嫌いなので、朝早く家事を済ませ、出かけることが多いです。最近では保育園児の息子が『妖怪ウォッチ』のゲームにはまっているので、これまで余り足を踏み入れることのなかったゲームセンターによくつき合わされます。お陰で私も、たくさんの妖怪の名前が言えるようになりました(*^_^*)

小学生、中学生の娘たちとはよくショッピングに出かけます。やはり女同士はショッピングも楽しいものです。ついつい余計なものまで買ってしまうこともしばしば・・・反省です。

夜は、流れて夕食することもあります。娘たちと夕飯を作ったりすることもあります。その傍らで旦那様が洗濯物をたたんでくれたり、息子と遊んだり・・・こんな感じで、まったりと休日が終わっていきます。

日々、忙しくしている分、休日は家族との時間を大切に、これからもママさんナースとして頑張っていきたいと思います!!

京都協立病院 外来看護師 大槻三由樹



第25回 脱原発！核廃絶！

平和のための盆おどり

京都民医連中央病院の職員や中・右京健康友の会・地域の方々と構成する実行委員会主催で8/1(土)に洛西保育園ウラの駐車場で開催され、1,200名がつどい、にぎわいました。

今回は、できるだけ手作りで楽しく、大勢の方々に楽しんでもらうことをテーマに、友の会踊りサークル「花みずき」や地域の民謡合唱団「かがり」の協力のもと、模擬店34店舗、「たべてや」「のんでや」「おどってや」と暑い中、地域の方や団体、職員が一緒になって楽しいひとときを過ごしました。

金魚すくいのお店は、小さな子どもたちに大盛況!! 途切れる間もなく続けました。最後はオムツのまま、水と楽しそうに遊ぶ子どもさんのプールになりました。



原水禁世界大会長崎代表团による力強い挨拶もありました。今、まさしく平和でなくなる「戦争法案」が参院特別委員会で始まり、この盆おどりを通じて再度、平和について地域や仲間に訴えていくことを感じた夜でした。

看護師国試対策講座開催

8月22日に武田看護研究所の三井明美先生をお招きし、国試対策講座を開催し32名の看護学生が参加しました。

講義では薬理学のお話について聞きました。医療安全の視点からの薬剤の話や、ニュースなどで話題になっていることが国試の問題に反映されることなど事例を交えてわかりやすくお話いただきました。参加者からは「命にかかわる事なので、看護師になってからではなく学生からしっかり学んでいかなければと実感した。」「薬の名称は暗記すれば良いけれど、効果や発現の方法、禁忌の理由は、今後看護師として働く上で常に理解しておかなければならない為、もっと頑張ろうと思った。」などの感想が寄せられました。次回は12月に1日企画を予定しています。



原水爆禁止世界大会 in 長崎に参加して



「戦争法案を廃案に！」

2015年の原水爆禁止世界大会は、戦後70年という節目の年で迎えたことと、国会で安全保障関連法案の審議の真只中での開催でした。長崎大会に参加をさせていただきましたが、多くの原爆被害者の方の体験を直接聞くことができ、原爆の非人道性を改めて感じ、二度と再びこの核兵器が世界中のどこであれ使用される事があってはいけないと思いました。原爆慰霊式典でも被爆者と遺族が、二度と日本は戦争をしては

いけない、憲法9条を守るように訴えられました。しかし、安倍首相は口先だけの平和への誓いを述べただけで、核兵器の廃絶に言及した言葉も無く、被爆者に対する慰霊の気持ちが感じられませんでした。

二度と核兵器の使用をしないためにも、その根本となる戦争法案を廃案にするまでは声を上げ続けていきたいと思っています。

京都民医連第二中央病院 師長室 杉林裕子

「未来をみすえて訴え続けなければならない！」

原水爆禁止2015年世界大会に行ってきました。原爆が投下され70年という月日が流れています。世界大会では各国の政府の核撲滅についての活動報告を聞いたり、実際に被爆者の方と交流をしたりしてきました。核撲滅はほとんどの国が求めており、核を所有している国も数国となってきています。それは唯一核爆弾の被害を受けた日本が先頭に立ち訴えてきた成果だと思います。しかし、70年が経っていますが、まだ世界からは核爆弾は無くなっていないのが現状です。

私たちが平和に暮らすためにも、未来を見据え訴え続けなくてはならないと世界大会に参加し感じました。

京都民医連第二中央病院 看護師 葛西光次郎



「アジアの平和のための日本の役割」

被爆国としての日本の立場からだけではなく、戦時中に侵略したアジアの国々の人からの話も聴きたいと思い、「アジアの平和のための日本の役割」分科会に参加しました。

海外からのゲストスピーカー、マリアナ諸島の女性は、辺野古に米軍基地が建設されなければ、代わりにマリアナ諸島に建設されるかもしれないと複雑な気持ちを明かしながら「We are one」と、一緒に基地撤去に向けて頑張りたいと訴えていました。

世界に軍隊を派遣しているアメリカからのゲストは、アメリカは国内外で軍事にばかり予算を使い、国内の社会福祉にはわずかな予算しか使わないと怒っていました。インドからのゲストは、アジアの国々が平和のための地域連合をつくり、被爆国である日本がイニシアティブをとることを期待すると話されていました。

今回の分科会を通じ、国や地域を超えた参加者の意見を聴くことができ、ひとりの人間として広い視野で考え協力し行動することが大切だと改めて感じました。

吉祥院病院 看護師 日西真理

